



「れきし」への扉 — 「わたし」を広げる35の物語—

「わたし」と「れきし」展実行委員会
井上未菜 奥川稀理 西山花音

この展示では、「わたし」と「れきし」展実行委員の3名が、「れきし」を考えるにあたってそれぞれが大切にしてきた大切な本や映画、場所などをご紹介します。

共通の1冊の本から連想する様々な〈物語〉を通して、今の「わたし」に向き合いました。

一見戦争とは無関係に思えるような〈物語〉も、普段の何気ない生活がそうであるように、「れきし」としっかりと結びついているのだと改めて感じながら、「わたし」が「れきし」を辿る途中、開いてきたいくつもの〈扉〉をノックするように制作しました。

【来場者からいただいたコメント】

- ・「政治や社会の主体は我々国民であるということを実感しました」
- ・「ジェンダーの話と戦争・平和の話はつながっていると思います。様々な気づきをくれそうな本の紹介ありがとうございます。私も他の人と話していこうと思います。」
- ・「無関心な若者ばかりではない、まだまだ諦めちゃいけない！と気付かせていただきました。」

その他、お薦めの本を紹介してくださる方もいました。

【実行委員の感想】

○井上

自分が大切にしている本、考え方が、会場にいらっしゃった方にとっても大切なものだとわかったときに、胸が熱くなりました。戦争の話はもちろん、今の社会のあれこれを、世代を越えて話せる場はとても貴重だと思います。本をきっかけに、身近なところから、たくさんの方と繋がることのできるのだと実感できました。

○奥川

本や博物館に出会うたびに広がってきた「わたし」の社会。今回の展示を通して、私にとって大切な博物館や本を紹介することで、さらに社会は広がっていきました。展示という表現活動をする中で、新たな人と出会い、新たな対話が生まれ、こんなにも学びが深まるのだと改めて実感し、貴重な機会をいただいたと思っています。ありがとうございました。

○西山

この展示は、私がこれまで出会ってきた、頭の中に散らばっていた物語を一つの模造紙に広げてみたものを、会場の皆さんに向けて広げて共有してみたものです。私個人の頭の中を広げただけではありませんが、展示を観てくださる方が、取り上げた物語同士のつながりについて不思議さを感じることを通して、観てくださった方自身の様々な「れきし」への扉につながっていれば嬉しいです。

【「れきし」への扉―「わたし」を広げる35の物語―で紹介したもの】

○本、絵本、漫画

『若者から若者への手紙1945←2015』落合由利子・北川直実・室田元美 著 2015年 ころから

『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』ブレイディみかこ著 2019年 新潮社

『忘却に抵抗するドイツ、歴史教育から「記憶の文化」へ』岡裕人著 2012年 大月書店

『「慰安婦」問題を子どもにどう教えるか』平井美津子著 2017年 高文研

『黒い雨』井伏鱒二著 1970年 新潮社

『人は見た目！と言うけれど』外川浩子著 2020年 岩波書店(岩波ジュニア新書)

『黒地の絵 傑作短篇集〔二〕』松本清張著 1965年 新潮社

『82年生まれ、キム・ジョン』チョ・ナムジュ／斎藤真理子(翻訳) 2018年 筑摩書房

『差別はたいてい悪意のない人がする―見えない排除に気づくための10章』

キム・ジヘ／尹怡景(ユン・イキョン) 訳 2021年 大月書店

『茶色の朝』パヴロフ・フランク(物語)／ギャロ・ヴィンセント(絵)／高橋哲哉(メッセージ)

／藤本一勇(訳) 2003年 大月書店

『「ホロコーストの記憶」を歩く―過去をみつめ未来へ向かう旅ガイド』

石岡史子/岡裕人著 2016年 子どもの未来社

『「日韓」のモヤモヤと大学生のわたし』加藤圭木(監修)

一橋大学社会学部加藤圭木ゼミナール(編) 2021年 大月書店

- 『アーモンド』 ソン・ウォンピョン/矢島暁子（訳）2019年 祥伝社 大沢節子
2011年 岩波書店（岩波ブックレットNo. 820）
- 『フォトルポルタージュ 福島人なき「復興」の10年』豊田直巳著
2022年 岩波書店（岩波ブックレットNo. 1060）
- 『裸足で逃げる 沖縄の夜の街の少女たち』上間陽子著 2017年 太田出版
- 『愛と怒り闘う勇気 女性ジャーナリストいのちの記録』松井やより著 2003年 岩波書店
- 『みな、やっとの思いで坂をのぼる 水俣病患者相談のいま』永野三智著 2018年 ころから
- 『フォト・ルポタージュ 福島を生きる人々』豊田直巳著 2014年岩波書店（岩波ブックレット）
- 『人間の暗闇 ナチ絶滅収容所長との対話』ギッタ・セレニー/小俣和一郎（訳）2005年岩波書店
- 『ガルトゥング平和学入門』ヨハン・ガルトゥング、藤田明史編著 2003年 法律文化社
- 『花ばあば』クォン・ユンドク/桑畑優香(翻訳) 2018年 ころから
- 『へいわとせんそう』たにかわしゅんたろう(文)/Noritake(絵) 2019年 ブロンズ社
- 『まっ黒なおべんとう』児玉辰春（作）/長沢靖（イラスト）1995年 新日本出版社
- 『伸ちゃんのさんりんしゃ』児玉辰春（作）/おぼまこと（絵）1992年 童心社
- 『わたしのせいじゃないーせきにんについてー』レイフクリスチャンソン（著）
/ディック・ステンベリ（イラスト）/二文字理明（訳）1996年 岩崎書店
- 『草 日本軍慰安婦のリビング・ヒストリー』キム・ジェンドリ・グムスク（著）
/都築寿美枝、李■京（訳）2020年 ころから
- 『進撃の巨人』諫山創著 2010年 講談社
- 『逃げるは恥だが役に立つ』海野つなみ著 2013年 講談社

○その他

- ・アクティブ・ミュージアム「女たちの戦争と平和資料館」(wam)
- ・原爆ドーム
- ・第五福竜丸資料館
- ・PEACEDAY